平成１９年7月９日

平成１９年度　鉄道設備投資計画について

～９月スタートの交野線ワンマン運転対応工事費用などを盛り込みました～

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市中央区、社長：上田成之助）では、公共交通機関が果たすべき使命として、安全性、快適性のさらなる追求、バリアフリー化の促進などをめざし、毎年鉄道設備の投資を続けております。このたび、運転保安度や旅客サービスの向上を目的とした平成１９年度設備投資計画が決まりました。

具体的には「運転保安工事」として、淀駅付近の立体交差化、ＡＤＥＣ（自律分散式列車運行管理システム）の更新、踏切・信号の改良や電気室の更新、交野線ワンマン運転実施に伴う対応工事など、「サービス改善工事」として、エレベーター・スロープの設置、駅務機器整備およびトイレ改良などを行います。

その結果、平成１９年度の設備投資総額は７１億５千万円となります。概要は下記の通りです。

記

１．輸送力増強工事（４億５千万円）

○電気設備の新設・改良（４億５千万円）

変電所機器の更新など

２．踏切および運転保安工事（４４億９千万円）

○高架化工事（８億２千万円）

淀駅付近約１．５㎞の高架化、３カ所の踏切道を除却など

○踏切道の改良（２億２千万円）

踏切道の舗装、踏切障害物検知装置の更新、踏切集中制御装置移設及び踏切集中管理システム変更など

○車両の改良（１億６千万円）

列車モニター装置の更新、運転状況記録装置新設、電動発電機絶縁更新など

○線路の改良（１４億円）

橋梁改良、防災対策、道床改良、合成まくらぎ化など

○電気設備の改良（９億５千万円）

ＡＤＥＣ（自律分散式列車運行管理システム）の全面更新、信号関係機器更新など

○工場・検修設備の更新（１億６千万円）

寝屋川車両工場検修設備の更新など

○交野線ワンマン運転対応（２億５千万円） ※参照

ホームミラー、ホームモニターの新設、ホーム異常通報装置の増設など

○その他（５億３千万円）

３．サービス改善工事（２２億１千万円）

○駅施設の改良（１０億円）

ホーム改良、空調設備更新、自動案内装置変更など

○バリアフリー対策（４億２千万円）

エレベーターを３駅新設、１駅増設、エスカレーターを１駅更新、車いす対応トイレを３駅新設、スロープを１駅改良、列車接近表示装置を２駅整備など

○その他（７億９千万円）

ＰｉＴａＰａ関連駅務機器の整備、老朽化した駅務機器の更新工事のほか、車椅子スペースの新設、車内案内表示器および扉開閉予告装置の新設など

※　交野線のワンマン運転

平成１４年２月、「京阪グループ新生計画　Ｒｅ－Ｂｏｒｎ２１」において方針を発表しました交野線（枚方市（ひらかたし）－私市（きさいち）、６．９ｋｍ、８駅）のワンマン運転を９月２２日（土）始発から終日実施します。つきましては、以下のとおり保安設備の新設、増設を実施し安全対策の徹底を図ります。

① ホームミラーの新設	交野線内全駅１６ホームに設置します。
② ホームモニターの新設	枚方市駅第５番線、宮之阪駅下り、河内森駅下り、私市駅第２番線に設置します。
③ ホーム異常通報装置の増設	交野線内全駅１６ホームに設置します。
④ 限界支障検知装置の新設	２個所に設置します。
⑤ ホーム照明照度向上	交野線内全駅１４ホーム（枚方市駅を除く）で実施します。
⑥ ホーム検知装置の新設	１００００系車両６編成に設置します。
⑦ 車内自動放送装置	１００００系車両６編成に設置します。

以　上